

A) 文末のムード表現

英語では最初に主語S + 動詞V が来るので話者が何を言いたいが初めに分かりますが、日本語では肝心な部分が最後に来ます。その最後の肝心な部分の話者の様々な気持ち、態度、意思などの表現形態を「ムード」という概念で説明されます。

「明日は雨が降る」という事実(コト)の部分に対し「～と思う」と付け加えたら、その「～と思う」の部分がムード表現ということです。(話者の推測)

ムード表現には例えば、「～に違いない」とか「～してくれませんか」「～がとても嬉しい」「～ますか」など非常に多くの種類があります。

日本語教育では話者の気持ちを伝える手段としてその一つ一つを例文として導入し、意味が分かった上で何度も繰り返し、使えるようにすることを目標に進めていきます。

B) 文末でないムード表現

ほとんどのムード表現は文末に現れてきますが、文末以外でも話者の気持ちを表す表現があります。

1) とりたて助詞「は」——「主題のは」:

ある言葉を主題として取り立てて強調する時に使う
*家族でうなぎ屋へ行って「僕はうなぎだ」と言えば、他の家族は知らないけれど僕はここのウナギを食べたいんだ」という話者の気持ちを、「は」で言外に強調した表現です。

*ある蕎麦屋さんの張り紙 「当店のごはんは国産のお米を使っています」

「他の店は知りませんが当店は国産米です」というお客さんへのアピールの気持ちが言外に表現されています。

「は」は日本語文法では格助詞にも含まれない特殊な助詞ですが、このように言外に何かを言いたい話者の気持ちを表現している、としてムード表現の範疇で説明されます。

ある受講生に「女の人が6人います」という文を「女の人は6人います」にすると間違いですか？意味がどう違いますかと質問されました。どう説明しますか？ (みんなの日本語初級 I p94)

「が」という格助詞は述語との論理的関係を示しているだけ、事実を淡々と述べているだけ、これに対し「は」の場合は言外に何か言いたいことがあるのです。「は」と「が」は別の範疇にあり、性質が違う助詞であってどちらも間違いではありません。

「女の人が6人います」というのはそういう事実以外は伝えていませんが、「女の人は6人います」というと、「男の人は知らないが女の人は6人」ということが言外にあります。使い分けは話の流れの中で話者が決めていくことになります。(場面に応じて使い分ける)

日本人は言外に含みを持たせる言い方を好みますが、外国人はストレートな物言いをします。
含みを持たせない外国人への説明は難しいです・・・

「春はあけぼの」、男は黙ってサッポロビール、「花は桜木、人は武士」

その他いろいろあり、このような表現は言外に言いたいことがあるのです。

2) とりたて助詞「は」——「対比のは」

*九州は温かいが、北海道は寒い。→→これは2つを取り立てて比較している「対比のは」

*私は魚は嫌いだが、肉は好きです。

→ これは2つを取り立てて比較している「対比のは」
→ これは「主題のは」、他の人は知らないが「私」を強調している

3) とりたて助詞「は」——「未知のが」と「既知のは」

ハとガの用法で「未知のが」と「既知のは」と言われるものがあります。

典型例：

昔々あるところにおじいさんとおばあさんがいました。
おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。

ここで最初の「が」は、初めて出てくるおじいさんとおばあさんだから「未知のが」が使われており、2行目のおじいさんとおばあさんは2回目だから「既知のは」が使われています。
同時におじいさんとおばあさんを対比させているので「対比のは」でもあります。

物語の簡単な英訳

Long time ago, there were an old man and an old woman. One day the old man went to a forest to ~ , and the woman went to a river to ~

英文だと未知の（初出の）時は a、既知の時（2回目）は、the に相当しています。

4) 「は」以外の「取り立て助詞」には次のようなものがあります。

も、ばかり、こそ、でも、だけ、のみ、さえ

*父もカラオケに行った。——「母や姉ばかりでなく父までも・・・」というニュアンス

*子供が朝からゲームばかりやっている。——「勉強もしないでゲームばかりで困った！」

という本音が言外で吐露されている。

5) 副詞

*是非家に遊びに来てください。

*あいにく用事があっていけませんでした。

このような副詞も、話者の気持ちを表しているムードの表現形式として説明されます。

その他、「きっと、確かに、まるで、何て、当然、幸い、つい」 こういう副詞もムードの表現形態で、個別に例文で学習します。

以上